

市史編さんだより

富津市史編さん準備委員会

富津市史編さんへ 向かって

菱田忠義

であろうかと存じます。

富津市も市政の基本構想もあり、さきには希望の市章も制定され、さらに市民憲章も制定され、それにも「文化遺産豊かな歴史のふるさと」というたおれれておりますように、郷土の先人の遺してくれた数々の業績があります。今同この市史編さんという大事業に着手することによって富津市の歴史的全容がはじめて集大成され、明らかにすることと存じます。

昨昭和五十一年十月二十七日富津市史編さん準備委員会が発足しました。委員は市長から委嘱された十一名。発足と同時に役員をきめ早速準備の活動にはいりました。市民希望の市史を編さんするということは、非常に喜ばしいことでもあり、大変な仕事だとも存じます。

わが富津市は、去る昭和四十六年九月一日、太陽と海と緑の明かるい田園工業都市を目指して新しい市づくりに踏み出しました。それからすでに五か年、この辺でわがふるさとの歴史をかえりみ、将来の発展への資とすることも必要

りかかりました。それにして富津市全域の市史編さんは初めてのこととして、資料の収集が先決問題です。市民皆様の一軒一軒、お一人お一人の御理解によって、資料の発見、保存、御提示、御示教が切に望まれるところでございます。

「一万五千年前の石器」

栢山 林 継

使用したものと思われま。このように大切なものが、なぜこの地に残されていたのでしょうか。発見されたとき地表から五十センチから約一メートルの土中に、何も伴わずにぼつんと埋まっていた。掌の内にはいつてしまうこの小さな石器はこれまでの学術研究によって、一万五千年ほど昔の石器であり、関東地方の各地からも、ほとんど同じ形の石器が発見されていま

とりあえず、先般準備委員会が発足してから、富津市役所大佐和出張所の一角を市史編さん準備室として、鋭意準備に取りかかりました。来るべき四月からは正式に編さん委員会も誕生して、本格的に富津市史編さんの事業に取り組みることとなるかと存じます。さしあたり、市制十周年の年を因縁として、富津市史の

富津市域にいつごろから人が居住しはじめたか、これから研究しなければいけません。ここに図示した二点の石器は、天羽中学校建設の際現在のグラウンド周辺から発見されたもので、二個ともに硬質の石材で、ていねいに削られた、片方はピルピルの

かげらのように半透明で、黒曜石という石です。この石は千葉県では産しないもので、長野県あたりから運ばれてきたと考えられます。石器をつくることも知らず、住居もまだごく粗末なものであったころ、まず利器としてつくりましたこれらの石器は、彼らにとつてはもつとも大切な道具で、料理するときも、木を削るときも、獵をするときも武器としても、何にでも

す。つまり一万年以上の永い間、わずかにメートル足らずの土の中に眠っていたわけですが、畑が耕され、木を伐り、根を掘ることがあつてもじつと眠りつづけていたわけですから、この石器だけではなく、市民のみなさんの住まれている家屋の下にも、耕作している田畑の下にも、古代人の足跡がじつと眠っているかもしれません。石器一つでも、石材の搬入路、それに関係した人々、その後その人々はどうなったのか、いろいろなることを調べる材料になります。古代へのタイムトンネルは市民の皆さんのごく身近なところにありそうです。

富津市史の編さんについて

富津市長 白井 長治

富津市史を作つてほしいという希望が強いということを教育委員会から話さねた私自身もそうした声をしばしば耳にしてまいりました。文化財の宝庫といわれるほど文化遺産に恵まれる長い伝統をもつ富津市、また長い伝統をもつ富津市、

この事業はその性質上、相当の費用を要するものではないありますが、貴重な資料等が眼のとどこかぬかに散逸しつつある現状から考える

幸いなことに、本市には他市の市史編さんに関係された識見豊かな先生がたがおいでになります。こんな言い方は失礼かも知れませ

先人の尊い努力によって築かれた富津市にふさわしい市史を完成するために、編さん関係者の御尽力と共に市民各位のご協力を切に希望する次第であります。



ナイフ型石器
富津市岩坂



ポイント(石槍)
天羽中学校敷地出土

一つの「考えるヒント」として

私も一役買おう

刈込 碩 弥

五十一年度から富津市史編さん事業が発足し、万端その用意に当たっています。

そこで、郷土の歴史を担った多くの人たちの「声なき力」を掘り出すことこそ、最も望ましいことだと思っております。一例を挙げると、大貫漁港は、今でこそ、その偉容を誇り、朝な夕な漁業活動に

待望の市史の編さんが、いよいよ開始されるとのことと回廊にたえまません。いうまでもなく私たちの富津市は、住みよい、恵まれた風土と、古代からすぐれた歴史に培われてきました。

こうした伝統や歴史が系統だてて解明され、永く後世に伝えられるということには非常に意義があることと思っております。

最近、地方史の編さんは全国的な傾向であるとのことですが、このような風潮は単に歴史を記録することの必要性から、としてだけでなく、見方によっては、昨今のわれわれの生活が科学文明を追いすぎて、合理

市史編さんの開始にあたって

大森 一郎
市議会議長
幾世代の歴史の解明は、大変な難事業であることは想像に難くありません。直接編さんにあたられるかた

的生活を求めすぎたことへの反動が既に忘れられかけている伝統や風習に培われた人間関係の温かきや素朴な形の生活の知恵というものを再認識したいという願望から生れているのではないかと、とも考えられます。

がたのご苦労は察するにあまりありますが、願わくはこの事業が、一日も早く立派に完成して、市民の経済や政治文化の向上に大きな役割りを果たすことを祈念して止まぬ次第であります。

となったといわれ、浜の人たちの間で、「高根の下が大波で流されてしまう」という嘆きに、共鳴したオカ方の人たちの関心が、やがて全村挙げての事業までになったといえるわけで、明治末期、千葉県庁が落成し、時の皇太子がお成りの時に、お祝いに馳せ参じた県下の市町村長は、この日の感激を、各市町村の記念事業として、残そうと決めた。当時の大貫村では、漁港修築が決議されたというので

中世大いに繁栄 経済の中心となった富津

丸政吉さんから聞かされたのもです。大貫村は町となり、更に年を経て大佐和町となり、富津市誕生となったのですが、その間、この漁港も歴代の町長はじめ、時の当事者により遺業として受け継がれ、推進されたのですが、地方の事業は当然中央政治にもつながるわけで、明治大正、昭和、三代の歴史の中で、活躍された群像が眼に浮かぶのですが、のちの人がそれにもまして、これらの活躍を支えられた地元、多数の声なき力こそ見逃すことは出来ないはずで

この時、記念樹として、毎戸に配布された柿の木が、その後、立派にそびえ、よくその樹の下で私はこの話を時の元老浜田和翁や、丸藤七さん

今、この海は、東京市場に一番近い漁場として、漁業者自身も守るに足ると自信を深

々すべての道はローマへ……この言葉は西洋の古代史ではよく引用されています。江戸時代以前まで、東京湾に面した西上総地方では物資などひろく経済活動が、富津港を中心として、おこなわれていました。

そのための主な幹線道路は、ほとんど富津の宿場(港)へ向ってつくられました。この道は後に「かまくら道」などといわれ、今でも江戸時代に建てられた道しるべの石柱が旧道といわれる、そこかしこに残っており、徒歩交通の往時をしのばせています。

め、県水試のり分場の進出により、繁殖は勿論、海水汚染防止に活動され、漁協ともども、その振興に努力されているのですが、この大貫漁港もその生い立ちを裏づける貴重な資料が皆さんのお力によって次つぎと発掘され、広く収集されるなら、市史の一コマとしても、今後の活動の指針となるはずで

皆さんのご協力によってこの郷土を見直し、更に子孫に引継ぐためにも市史編さんに「私も一役買おう」という一人一人のご協力を期待し、この駄文が編さん事業推進のために一つの「考えるヒント」になるならば誠に幸いです。

小川 政 吉

こうしてその名が示すように富津港(宿場町としても繁昌したわけ)は木更津より早く大きく栄え、西上総沿岸では経済上随一の中心地となっていたことが、最近の研究で次第に明らかになってきました。

へ廻送されていきました。こうして中世経済活動の大きな母胎となった「問」とか「問屋」といった新しい商業組織が、まだ木更津にも、今津にもなかつた頃、早くもわが富津港には発生し室町時代の中ごろから、しきりにその力をたかめた海賊たちと時には連携し、小田原の北条氏や館山地方の里見氏と経済的に対抗するなど、幅ひろい社会活動を展開していたということも僅かではありますが解明されてきました。

こうしたことから、富津港とその周辺が、大へんを繁栄ぶりを示したことが、うかがわれます。

この富津港も江戸時代に入ると木更津に海上の輸送権をにぎられ、また明治から大正へかけて国鉄路線の布設などにつれ、中世の繁栄から次第に遠のき、ある時には陸の孤島々などともいわれましたが、京葉工業化に伴う交通開発につれて、再び新しい息吹きが感じられています。

私は波乱にとんだこの富津という港町、宿場町の盛衰史をふりかえり、富津という地名と、古くから培われた伝統に、ほのかな誇りを感じるのと共に、古くて新しい町づくりにのために、これから生れる富津市史の影響力が、より大きいものなることを希って止まみません。

平凡な民俗で市史を

高橋 在久

富津市史の編さん準備が始まった。市民総参加の構想で富津市の過去を総括し、住民が歴史のなかでどう生きてきたかを、自覚し反省するには絶好の機会であり、新しい郷風を確立するための基盤にしたいと念じている。

こうした富津市史を完成させるためには、さきに「日本民俗学の視点」(日本書籍発行)という、民間の風俗である民俗の研究入門書にも書いたが、私は遺物や記録だけを基礎にした富津市史ではなく

人に家に里に伝承されてきた有史以外の多彩な民俗を、積極的に収集活用した富津市史をめざし、住民が歴史のなかでどう生きてきたかを裏証したいと期している。

ひとつの例をあげると、私は「広報ふつつ」に連載中の「富津の年輪」で、萩生海岸に伝承されていた自然の推移を基準にした漁業の歴史を論じたことがある。それは「アジサイの花の咲く頃が、桂網でタイを採る一番の適季だ」という自然暦のことであった。

借入金子之事

一金老両也
右者無擬入用に付借用申
処実正也利分之儀者老ケ
月式拾両ニ付老分之勘定
を以当十一月晦日無相違
返済可致候為後日之証文
仍而如件

天保三壬辰年 借主
上飯野村
役人中

一枚の借用証

八田 英夫

上の文書は上飯野の名主をしていた庄司家の古文書の中にあつたものである。これが印象に残つたのは借主が飯野陣屋にいた代官の手代と思われ

草葺屋根が多くてやり切れないので倉をこわした。その中に沢山の古文書があり、ひどいものは燃したが、次のような手紙が残っていた。

御鷹御用 本郷村
廻状 下湯江村
相ノ谷村始メ

御鷹御用宿の水夫人足は是迄お頼みがあつたので、根村で買揚げ人夫により勤めてきたが、時節柄今までの賃銭では難儀である。これからは正人足で賄方をお願いする。

高慶匠様の御出役が間近であるから来る十五日迄に御挨拶をお願いしたい。

寅十一月二日 本郷村
(午前六時)
卯上刻出 下湯江村
(七時)
相ノ谷村 中刻拝見
(九時)
障子谷村 辰下刻拝見
(十一時過)
一色村 巳下刻拝見
(午後二時)
近藤村 未上刻拝見
以下略(五日午前〇時)
大和田村 早上刻拝見
早々順達仕候

廻状

小沢平二郎

たからである。当時藩主は大阪定番、加番や江戸城の門番を勤めたりして不在となることが多く、陣屋には代官、手代などを置いたようであるが詳細はよくわからない。手代

がどれ位の俸禄をもらつていたかはつきりしないが、大體年間米十石位、代官が十八石位と推定される。現在の米価一石を四万円として計算すると手代は四十万円位となる。当時物価は安かつたとはいえず下級武士の生活はらくではなかつたのであろう。この証文にかかれてある利率は年一割五分で普通である。また宛名が村役人(名主、組頭、百姓代をいう)中となつていて、その面白い。この証文が残つてゐるのも結局「貸し下され」となつてしまつたものであ

各村とも見た時刻を書き印を
おし(近藤・横峯・海良・梨
子沢・小志駒は御用のため無
印と記す)僅か五日少々で七
十五ヶ町村全部の回覧を終つ
た。

特に田舎は草木も眠る丑満
時の山坂越えて宇藤原の名主
宅をたたく、その日のうち宇
藤木松節山中から志駒が六日
の早朝三時。不入斗七日上

宿賃のことを木賃といつた。
写真は御鷹宿の木賃の受取り
である。受取りは先方へ差出
すもの、こちらへ残るはずは
ない。これは書き損じの紙屑だ
つた。

しかし
これが
あるた
めにい
くらか
のこと
がわか
つた。

御鷹より禁止された廻状は赤紙により再
発された。
当地方で集めた年々不明だが昔は赤
紙二十年はなつた。
役人達は威張つてはならない、村の過分の
ことをしてはならないといふことが
ついでにあらわされた。だからその事を書いて
ある。御鷹宿御鷹宿御鷹宿は、廻りが抜け
たのである。

三、この時の御鷹宿御鷹宿は、廻りが抜け
たのである。
立派な家を新築される方が
多いが古い家と共に資料が灰
になるのは惜しい。
今からでもおそくない。

(二時)
丑上刻拝見
早々順達仕候
(五時)
宇藤原村 寅下刻拝見
略 最後は
金谷村 七日辰下刻拝
見
各村とも見た時刻を書き印を
おし(近藤・横峯・海良・梨
子沢・小志駒は御用のため無
印と記す)僅か五日少々で七
十五ヶ町村全部の回覧を終つ
た。

特に田舎は草木も眠る丑満
時の山坂越えて宇藤原の名主
宅をたたく、その日のうち宇
藤木松節山中から志駒が六日
の早朝三時。不入斗七日上

宿賃のことを木賃といつた。
写真は御鷹宿の木賃の受取り
である。受取りは先方へ差出
すもの、こちらへ残るはずは
ない。これは書き損じの紙屑だ
つた。

しかし
これが
あるた
めにい
くらか
のこと
がわか
つた。

御鷹より禁止された廻状は赤紙により再
発された。
当地方で集めた年々不明だが昔は赤
紙二十年はなつた。
役人達は威張つてはならない、村の過分の
ことをしてはならないといふことが
ついでにあらわされた。だからその事を書いて
ある。御鷹宿御鷹宿御鷹宿は、廻りが抜け
たのである。

三、この時の御鷹宿御鷹宿は、廻りが抜け
たのである。
立派な家を新築される方が
多いが古い家と共に資料が灰
になるのは惜しい。
今からでもおそくない。

